興戸宮ノ前遺跡試掘調査概報

(田辺町埋蔵文化財調査報告書　第９集)

１９８７

田辺町教育委員会

はしがき

興戸宮ノ前遺跡は、本町中央部の式内酒屋神社東側に広がる遺跡で、昭和55年度に第１次調査を行っています。

今回の調査は、宅地開発に伴う事前調査として、第１次調査地の北側の水田地において実施したものであり、調査の結果、調査地北側に隣接する寿命寺に関連したものかとみられる五輪塔の一部などがみつかりました。

前回同様ご協力いただいた三和住宅株式会社の方がたをはじめ調査に従事された皆さま、関係各位に厚くお礼申しあげます。

昭和62年３月

田辺町教育委員会

教育長　吉　山　勝　平

例　　言

１．本書は、三和住宅株式会社の依頼を受け田辺町教育委員会が行った、京都府綴喜郡田辺町大字興戸小字宮ノ前所在の興戸宮ノ前遺跡の試掘調査の概要報告である。

２．現地調査は昭和61年５月19日に開始し６月16日に終了した。

３．調査の組織は次のとおりである。

調 査 主 体……田辺町教育委員会　教育長　吉山勝平

調査担当者……田辺町教育委員会社会教育課　鷹野一太郎

調査事務局……田辺町教育委員会社会教育課　（課長　加藤晴男）

調査参加者……南　旨光・岩崎　信・青代　智・岡山　努・西岡千春

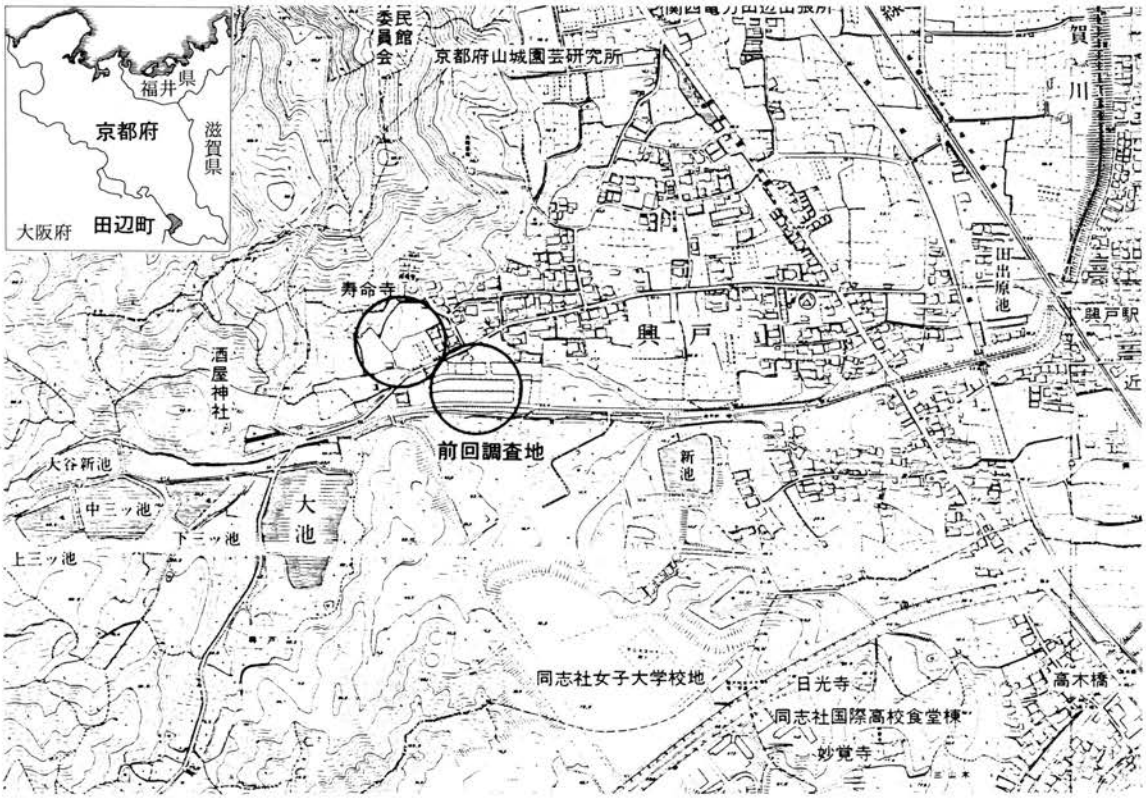
４．本書の執筆・編集は鷹野が行った。

はじめに

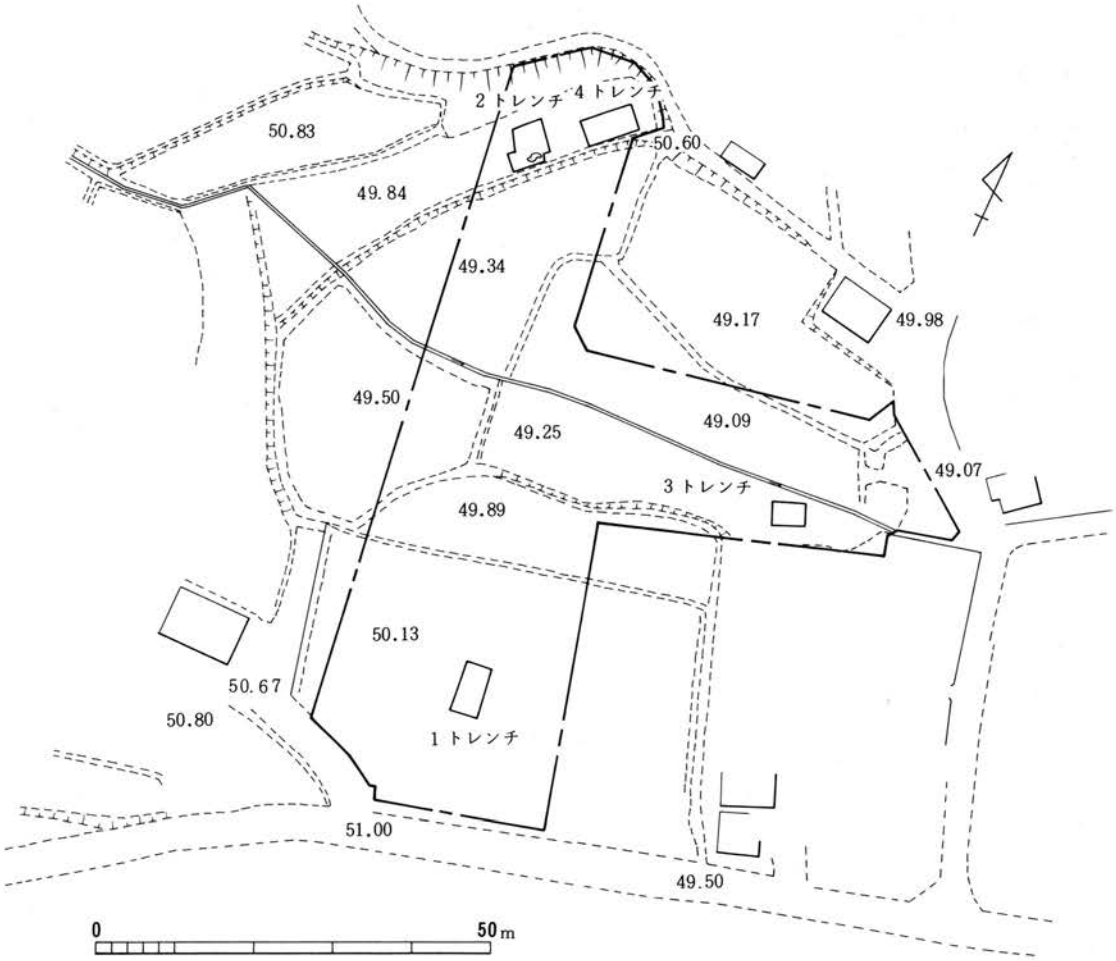
昭和60年10月、奈良市西大寺の三和住宅株式会社より田辺町教育委員会に対し、同社が宅地開発を計画している田辺町大字興戸小字宮ノ前５－１番地ほかに所在する埋蔵文化財についての協議があった。同所は、昭和55年度に同じ三和住宅株式会社の依頼により、当委員会が調査を行った地域に北接する地域であった。前回の調査結果や行基開創とも伝えられる寿命寺に接している地点であることなどから、文化財保護法に基づく手続きと事前の試掘調査が必要である旨回答した。

前回の調査は、南山城における天井川の代表例である防賀川の北岸台地上で実施し、防賀川の旧河道が発見され、それが15世紀代頃に埋積したこと、15世紀代の土器の器表面に磨滅が認められないため近辺に15世紀代を中心とする遺構が存在していることなどが判明した。

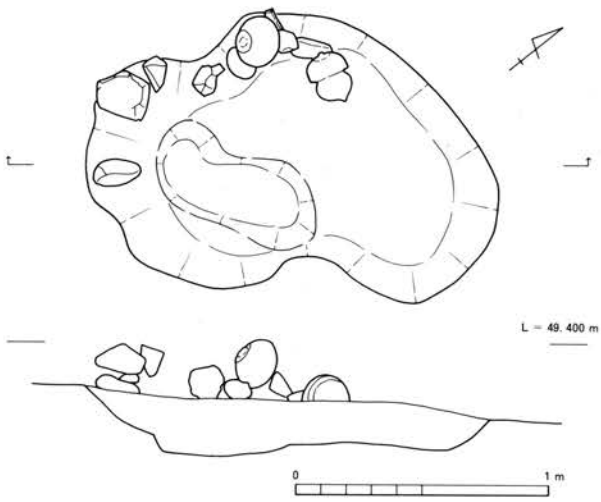
現地調査は、昭和61年５月19日に開始し６月16日に終了した。調査に従事された諸氏、関係各位その他多くの皆さまの協力によって今回の調査が行われたことをここに記して感謝の気持ちとしたい。



調査地位置図（S＝1：10,000）



トレンチ配置図



SX01　実測図

調　査　概　要

今回の調査地は、前回調査地の北西に隣接した場所で、かつては水田として耕作されていたところである。北側は丘陵地が迫り、南側は防賀川により運搬された砂により形成された台地で、それらに挟まれた南北幅約100mの東に向け広がる谷地形を呈している。標高は49～50mを測る。

調査区域が「⊢」形であり、南・北・

東の順にトレンチを入れ、その順に1・2・3トレンチと名付けた。その後遺構の発見された2トレンチの東側に4トレンチを追加し調査を行った。

1トレンチは、耕作土・床土以下青粘土と砂の互層であり2m掘り下げても変化なく、また遺物の出土もなかった。

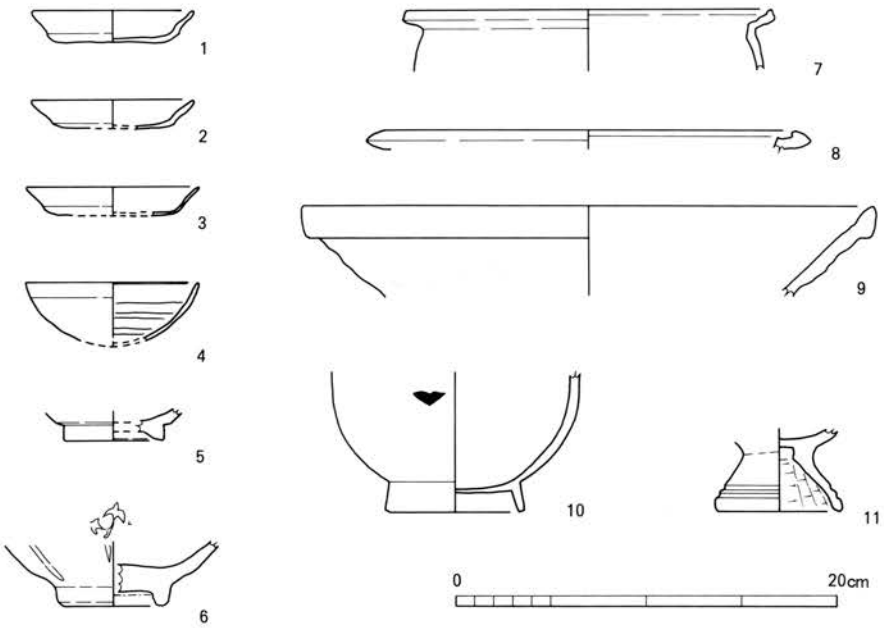
3トレンチは、最も現在の集落よりに設定したもので、最近のものとみられる溝が発見されたほか遺構の発見はなかったが、弥生土器が1点出土している。

2トレンチは寿命寺のすぐ南西に入れたものだが、東西1.7m、南北1.2mの土壙が1基発見された。土壙の上面で五輪塔の一部や人頭大の花崗岩等を発見した。埋土は砂・砂礫である。埋土内からは室町時代初頭頃の土師器の皿や瓦器の釜等の破片が出土している。五輪塔は水輪・空輪・空風輪があり、2組以上とみられ、火を受けた跡がある。この土壙を墓坑とみるのか、もともと穴のあったところに丘陵から砂とともに五輪塔などが流れてきたものかよくわからないが、後者の可能性が高いと考える。

SX01　上面

SX01　半割後

SX01　五輪塔



遺物実測図

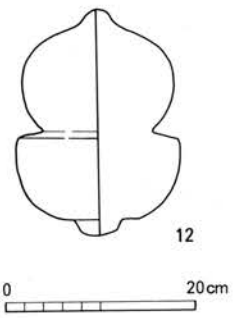
ＳＸ01：３・８、２トレンチ：１・２・４・６・７・９・10、３トレンチ：11、４トレンチ：５

出　土　遺　物

出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦・陶器・磁器・木製品・五輪塔材があり、時期的には弥生時代から近世・近代のものが含まれる。

１～３は土師器の皿で口径約8.5cm、高さ1.7cmを測る。４は瓦器椀で口径９cmを測り口縁端部内側にかすかに沈線が残り、内面にはヘラミガキがある。５は天目茶椀の高台部である。瀬戸系とみられる。６は青磁椀で、外面には幅広の蓮弁が、内面見込みには花文が施される。うす緑色の釉が高台の内側までみられる。７は土師器の羽釜、８は瓦器の釜である。ともに外面にはススが付着している。９は東播系の擂鉢である。口縁端部の残りが悪く、傾きは確かではない。口径30cm。10は漆器椀である。内外面とも黒漆を塗布した後外面に朱漆で文様を描く。11は弥生土器の脚台部である。12は五輪塔の空風輪である。花崗岩製。

弥生土器を除き、概ね15世紀初頭に属するものと考えられる。



五輪塔実測図

ま と め

今回の調査の成果をまとめてみると、①寿命寺に関係するとみられる中世遺物がみつかったこと、②弥生時代の土器がみつかったこと、になろう。

①については、五輪塔の発見であり、青磁椀、漆器椀等の発見である。それぞれ直接的な関係はないとみられるが、寺伝によれば行基創建と伝えられる寿命寺の中世の様子を伝えてくれるものと考えられる。なお、2トレンチの東側に4トレンチを入れ、同様な土壙等の発見を目指したがみつからなかった。

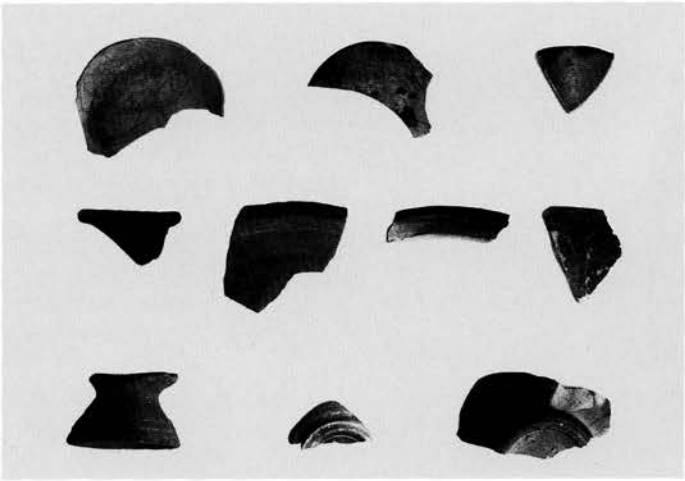
②については、弥生土器は現在の集落のごく近くからの発見であり、しかも器表面は磨滅しておらず、今回調査地の東側ごく近くに同時期の遺構が存在するものと考えられる。

参考文献

奥村清一郎・西川英弘「興戸宮ノ前遺跡発掘調査概報」(『田辺町埋蔵文化財調査報告書』第2集　田辺町教育委員会　昭和56年)

4トレンチ（東から）

調査地全景（南から）



出土遺物

昭和62年３月30日　印刷
昭和62年３月31日　発行

興戸宮ノ前遺跡試掘調査概報

（田辺町埋蔵文化財調査報告書　第９集）

編集・発行　田辺町教育委員会
〒610-03 京都府綴喜郡田辺町
大字田辺小字田辺80番地
電話 07746－2－9550

印　　刷　明新印刷株式会社
〒630 奈良市橋本町36番地
電話 0742－23－3131